

令和2年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

令和2年4月20日

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | | | |
|---|---|--|---|----|----|-------|
| <p>激変激動の時代を迎えるにあたり、生徒一人一人が志を立て個々の将来を見据えて希望進路の実現に向かうとともに、地域創生に寄与する人財育成を推進する。</p> <p>○基礎学力とともに、「創造力」「発想力」「人間性」「礼節」等の人間力向上を図る。</p> <p>○誰もが未経験の時代において「健全な危機感」を持つことの重要性について理解を促し、共生社会の中で生き抜く力を育成する。</p> <p>○学校行事、部活動、ボランティア活動等とおして、生徒個々の資質能力を向上させるとともに学校の活性化を図る。</p> | | <p>・令和2年度2年生の「総合的な探究の時間」はそれぞれの教科の特性を活かした探究活動を検討し、指導計画を作成することができた。令和2年度、それに基づいた活動を活性化していく。</p> <p>・より授業を活性化させるため観点別評価の導入によって生徒に、日々の授業や一つ一つの取組に集中して取り組ませ、達成感を味わわせることに努める。観点別評価の実施については、教科主任会議で検討、一致した指導体制が確立できるようにする。</p> <p>・基礎学力の向上のため、1年の最初の段階(オリエンテーション等)で勉強の仕方、進路についての考え方、授業の受け方(ノートの取り方)等を徹底していく必要がある。</p> <p>・模擬試験の積極的な受験を促すとともに、返却データの活用を強化していく。また、入試改革に伴って、授業の内容を含め学習指導方法を改善していけるような研修会を早期に持つ。</p> <p>・3年生の就職については、学校紹介を希望する生徒は具体的な方策を実践することで、本人の希望した職種への就職内定率100%を達成できた。進学については、センター試験の受験者が10名と昨年より増加し、少人数ではあるが生徒が最後まで粘る姿勢を見せてくれたことは評価できる。進学補習や就職指導に対する姿勢に関して、「早期から」というキーワードを掲げ進路希望を明確にし、適切な時期に繰り返し情報を伝えることが必要である。</p> <p>・生徒自身の意識の向上により、地域からの苦情は減少した。今後、教員全員が一致してできる生徒指導を目指して、指導内容のポイントを明確に視覚化することを含め考えていく。また、遅刻とアルバイトの対処方法については議論を重ねていかなければならない。</p> <p>・昇降口のモニターやSNSを活用し、より充実した校内広報を行うことで、生徒による校外への広報にもつなげていく。</p> <p>・生徒のゴミ分別意識を高めることにより削減に効果があったが、さらに削減に努める。</p> <p>・今年度は11月に一斉読書活動を実施し、全校体制で読書啓発に努めることができた。令和2年度も継続・発展させ、落ち着いた学習活動の実現にもつなげていきたい。</p> | <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・進路希望に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『あたり前のことをちゃんとさせる・褒める・温度差のない指導』</p> <p>環境整備 『事に臨む前、事に望んだ後に場を整える・感謝の気持ち、奉仕精神を育む』</p> <p>広報活動 『全校体制でHPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介』</p> <p>労働環境 『超過勤務縮減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上』</p> | | | |
| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
| | | | 中間 | 最終 | 総合 | |
| 国語科 | 生徒が卒業後、社会で活躍するための基礎力を身につけさせる。特に、自分の思いを表現できると同時に、相手との言語による円滑なコミュニケーションができる力をつけさせる。 | <p>持参物や学習方法、家庭学習等、すべきことを明示する。またそれらを、授業内での確認や小テストで適切に評価することによって、日々の授業を大切に、当たり前前することを当たり前前に行う態度を育成する。</p> <p>生徒の学力実態、進路希望、将来のキャリア形成等を念頭に置いて教材の選定を行い、生徒の興味、関心を喚起する。また、講義形式の授業だけでなく、プリント学習、グループ学習、自学学習、教え合い、発表等を適宜取り入れることで、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> | | | | |
| 地歴・公民科 | 授業の内容と世の中の事象とを関連づけ、生徒に社会の見方・考え方を身に付けさせ、主体的に学習に取り組ませる。また、未来の有権者として、一人の主権者として現代社会での諸活動に参画する態度を育む。 | <p>地理・歴史・公民分野の授業内容を適切に理解させるとともに、時事問題や生徒にとって身近な事柄も扱い、生徒が自分のこととして社会の問題を考えられる授業を行う。また、学習の仕方の具体例を示し、学習への意欲を高める。そして、適宜声かけを行い生徒の状態を把握し、担任や分掌とも連携して指導を行っていく。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導としては、目が行き届く環境で課題等に取り組ませる等の方法を講じる。</p> <p>文献や新聞記事など多様な史・資料、視聴覚教材などを用いて、社会的な見方・考え方を身に付けさせ、現代の諸課題の解決をめざし、その内容を探究的に学習させる。また、プレゼンテーション能力を身に付けさせるために、科目の特性に応じて、発表やグループ学習、ディベートなどを取り入れ、他者の考え方にふれたり自己の意見を他者に伝えたりする経験をさせる。</p> | | | | |
| 数学科 | 基礎基本の定着に重きを置き、新学習指導要領を視野に入れた授業改善を行う。 | <p>共通の小テストを定期的に行い、家庭学習の習慣を身につけさせて基礎学力の向上を図る。また、共通の小テストに向けて統一した週末課題を出して学習習慣の定着を図る。</p> <p>「進学補習の充実」「教員の授業力向上」「生徒の学力実態把握」に向けて、学びの基礎診断毎に教科の研修会を行う。</p> | | | | |
| 理科 | <p>新たな学力観を見据えて、基礎学力の向上を図る。</p> <p>生徒の実態と新たな学力観を見据えて、自ら学ぶ姿勢を養うための授業改善を行う。</p> | <p>毎時間授業規律を守らせ、学習環境を確保する。また、知識だけではなく、得た知識を活用して課題解決を行うことで、思考力を身に付けさせる。基礎学力が身につけているかを、小テストやレポート等によって評価し授業に反映する。</p> <p>学習への意欲を維持させるために、実験・実習や理学的思考を養うような授業を多く取り入れる。また、生徒にとって身近な話題や、新たな発見のある内容などを盛り込んだ、生徒の興味に合った授業を展開する。進路決定後も卒業後を視野に入れた指導を行う。</p> | | | | |
| 保健体育科 | 心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健やかな身体の育成を目指す。また、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行う。 | <p>生徒の能力や適性、興味や関心等に応じて、運動の楽しさを味わい、自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題を解決する能力を育てるため、ICT機器の活用やグループ学習、発表等の形式も取り入れ、主体的な学びを手助けする。</p> <p>個人またはグループにおいて課題学習を通して、調査・研究・発表を実践させる。発表の際には生徒自らがICTを活用したプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育てられるよう指導する。</p> | | | | |
| 芸術科 | 学習意欲向上を目指した授業の改善・工夫「わかる授業」を目指した指導方法の工夫 | <p>本校生徒の実態に応じた教材の開拓、精選と研究を行う。</p> <p>生徒の感性をもとにした実技活動を進め、内容を深めるとともに、観点別評価の研究と実践を行う。</p> | | | | |
| 外国語科 英語 | あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。 | <p>1年生における学び直し教材を通して、基礎・基本を身につけさせる。2、3年生においても4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、アクティブラーニングやパフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文)を取り入れた授業や評価に取り組む。</p> <p>英語を苦手とする生徒に対しては、つまづきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、それぞれの進路実現につながる授業や補習を実施する。</p> | | | | |
| 家庭科 | 実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切に。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。 | <p>・自分自身の生活を見直し学んだことを生活に反映できるような学習課題に取り組ませ、知識と技術の向上を図る。</p> <p>・グループ学習や発表会、社会人講師による講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。</p> <p>・調理・被服製作・保育などの実習における教材や指導方法を工夫し、実践力を身につけさせる。</p> <p>・子育て学習プログラムを利用し、「ライフスキル」の探究活動における教材研究をする。</p> <p>・保育技術検定4級合格率100%を目指す。</p> <p>・ICT活用教材の研究を進める。</p> <p>・授業プリントやレポートを確実に取り組み、考査ごとにファイルの内容を確認し評価する。</p> <p>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ・言葉遣い等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努力する。</p> <p>・実習時の服装、身だしなみ(スマートフォンのルール)、衛生安全面についての授業規律を確認させ、周知徹底する。</p> <p>・黒板を写すだけに終わらず、生徒自身が考えて取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を継続させられるよう指導方法を工夫する。</p> | | | | |
| 情報科 | 授業規律の確保とともに、激変激動の時代に対応できる「自ら学ぶ姿勢」を養うため、実践的・体験的な学習活動を重視し、発表や相互評価を通して、共生社会の中で生き抜く力を育成する。 | <p>授業規律の確保に努め、落ち着いた学習できる環境が生徒自身の自覚により生まれるように指導する。特に授業開始・終了時の礼や服装などの指導を強化する。</p> <p>生徒の学力実態を把握し、新たな学力観を視野に置いた実習や授業の展開を考える。また、学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。さらに、探求的な学習の時間を通じ社会に貢献できる人間を育てる。</p> | | | | |

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

| | |
|-----------------|--|
| 学校関係者評価委員会による評価 | |
| 次年度に向けた改善の方向性 | |